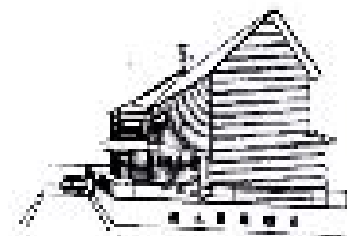


**<今朝の聖書から>** 今朝の個所から“誓い”について見てみましょう。神は旧約の昔から、ご自身を指して、また天と地とを指して誓いをされました。誓いの内容を保証するものとして、ご自身の名によってとされたのです。従って、人々が誓った時、その内容によって、またそれをどのような意志に基づいて誓うかによって、それが破られた時の裁き・災いは大きいのです。バプテスマのヨハネの殺害に関してなされたヘロデの誓いは、間違った誓いの代表のように、聖書は語っています。これはまた誓いを聴く者にも大きく関係しています。“誓いの言葉”という言葉在日常いろいろのところで聴きますが、そんなに真剣に聞いていない時もあるのではないのでしょうか。プロテスタント教会では、誓約という言葉を使います。幼児洗礼を授ける時、“あなたの兄弟にして、教会の子供である者に教えますか”と聞きます。そして“はい”と答えるのですが、都合が悪くなると、どんなに簡単にこの約束を忘れて“私には理由があるので、教会には行かない”と言って、教会と信仰生活から離れることがあるか、いくつかは思い当たることでしょうか。なにか約束を“なかったことにする”時、どんな誓約をしたのか思い出したいものです。レビ記19：12に“わたしの名により偽り誓って、あなたがたの神の名を汚してはならない。わたしは主である”という今朝の個所の5：33に関することがあります。主の名によって誓われたこと、誓約が反故にされた時、その報いは大きく、今もし大変な苦難と寂しさに直面しているとしたら、約束違反が根底にあることも多いのです。この経験を知っている教会は、誓約を大切にし、“起立してください”という言葉に続いて、主の祝福として誓約をすることにしています。イエスさまは、姦淫についても離婚についても極端な理解を提示し、終末的な理解を示された後、誓いについても語っておられます。ここで気をつけましょう、誓うことを要求しているのではなく、誓う時の真実と、誓いの誠実さを力説しておられることです。すなわち、言葉に忠実であり、献身の思いに誠実であるようにしなさい、というのが、神の意志であると語られるのです。このような信仰のもとでは“どんな誓いも、中身を高めたり低めたりするものではない”という言葉を、いろいろなものを引き合いに出して行われる誓いは、その人の誓いに“本当だろうか”という疑いのもとにしかならない、と語られます。誓いと約束が山のようにある現代、誓いより、誠実さが大切なことを忘れないようにしましょう。

# 週報

2009年 6月 28日



伝えよう 救い主を  
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式	第一日曜日)
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)